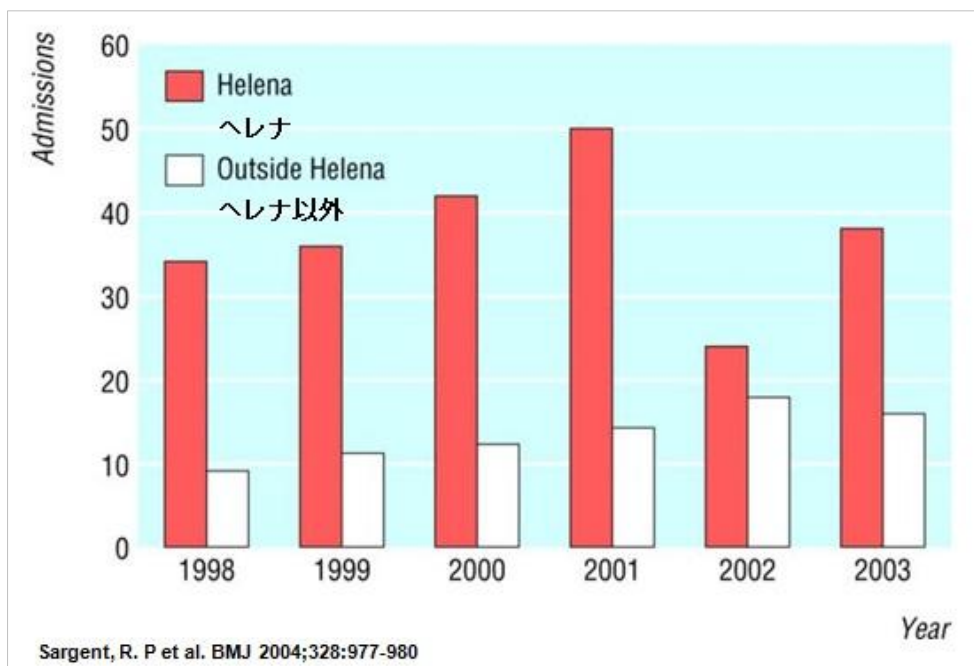


# 週刊 タバコの正体

前回、タバコを吸うと“心筋梗塞”という怖い病気になる確率が高くなる事を紹介しました。タバコを吸うと血管にダメージを与えるのが、そもそもの原因だと言う事も分かってもらえたでしょうか。一見、タバコの煙が心臓の病気と関係するなんて、ちょっと想像しにくいと思いますが、案外ストレートに影響するらしいのです。今回は、そんな実例を紹介します。

今から10年前、アメリカのモンタナ州ヘレナ市という人口約6万人の町で“心筋梗塞”の患者が減少したことがありました。下の色付きグラフがヘレナ市における心筋梗塞の入院患者を、白いグラフはヘレナ市周辺の入院患者を示しています。

白いグラフは毎年少し増加しながら大きな変化がないのに対し、色付きグラフは2002年に急激に減っているのがわかりますよね。じつは、この年ヘレナ市では職場と公共の場所を禁煙にする条例が施行されたのです。



グラフをよく見てください、ヘレナ市を示す色付きグラフの2002年は前年の2001年の約半分です。公の場所でタバコの煙がなくなるだけで、こんなに心筋梗塞の患者が減るということなのです。

条例が実施されたのは、この年の6月から12月までの半年間だけだったそうです。だから、翌年(2003年)には、心筋梗塞の患者が増えています。

ヘレナ市全体が禁煙状態になった間だけ、心筋梗塞の発症が減ったのだから、タバコが心筋梗塞と関係している事は明らかです。でも、どうして禁煙条例の実施が半年間で終わってしまったかという、残念なことにタバコ会社の猛反対をうけて裁判所が条例の停止を命令したそうです。

ともかく、タバコの煙がなくなれば、たちまち心筋梗塞が減るという事を知っておいて下さい。そして、このことを家族や身近な人にも、ぜひ伝えてあげてください。

産業デザイン科 奥田 恭久